

イノシシの近づきにくい 環境づくりに取り組もう！

目次

- 相手を知る ▶ イノシシってどんな動物？ .. P3
- 対策① ▶ イノシシを近づかせない環境づくり .. P4
- 対策② ▶ イノシシの侵入を防ぐ方法 .. P5
- 対策③ ▶ 被害が止まらないとき .. P7



尾道市

はじめに

近年、イノシシによる農作物被害や、住宅地への出没など、住民の皆様からイノシシに関する様々な問題に対し、多くの相談が寄せられています。

本来、イノシシは臆病な動物のため、理由もなく住宅地等に出没することは考えにくく、頻繁に出没する場合は何らかの原因があると考えられます。

イノシシ被害を防ぐには、出没の原因を知り、イノシシが近づきにくい環境をつくること大切です。このような環境づくりによって、被害防止の効果を高めることができます。

また、イノシシなどの野生鳥獣は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」によって狩猟方法が規定されており、無許可・無免許で捕獲・殺傷することは出来ません。

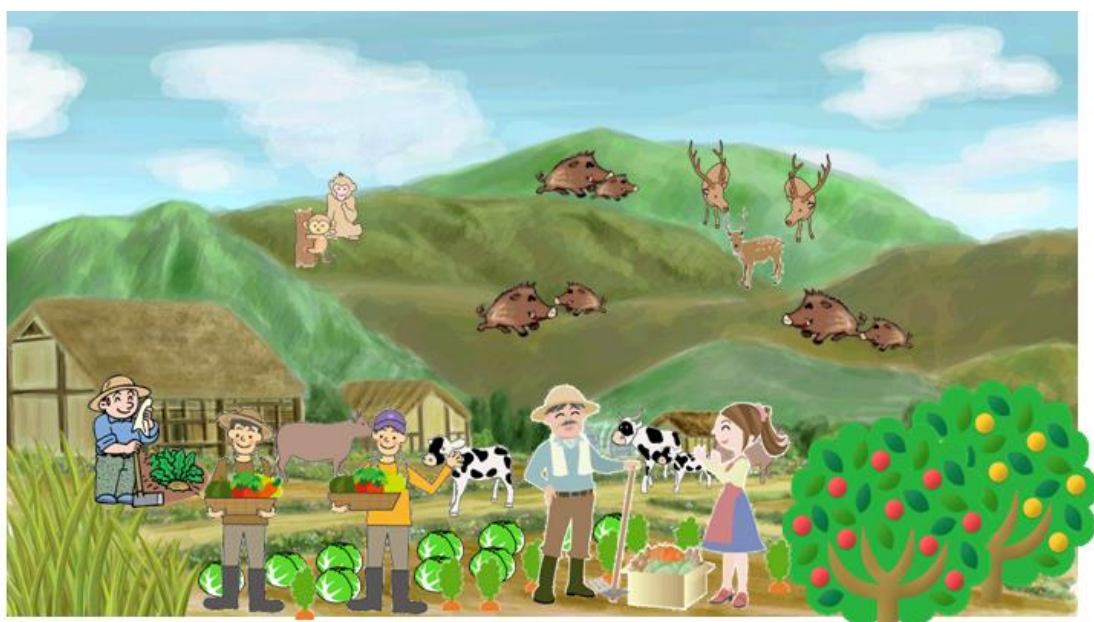
狩猟による捕獲や被害防止策をとってもなお農作物への被害がある場合の特別措置として、市は猟友会の協力をいただいて尾道市有害鳥獣捕獲班を編成し、イノシシなどの捕獲（※）を実施しています。

一方、これまでの取り組みから、捕獲にたよった対策だけでは被害を抑えられないことが分かっています。

- なぜイノシシが出没するのか
- どうすればイノシシが出てこなくなるのか
- イノシシに出会ったときはどうすればよいか

など、正しい知識を身につけて被害を未然に防ぎましょう。

(※) 銃やわなを用いて捕獲を実施しますが、周辺に民家がある場合には銃が使用できないため、山への追い払いを基本とした対応をしています。



《相手を知る》 イノシシってどんな動物？

イノシシは馴染みのある動物ですが、その生態は意外と知られていません。まずはイノシシのことを知り、その習性や行動に応じた対策を取ることが大切です。

Q1 住んでいるのはどこ？

A1 もともと人里からあまり離れていない里山に生息しており、特に草むらやヤブを好んで利用します。茂みや耕作放棄地の中に「寝屋」があるので、このような場所が多い地域ではイノシシが出没しやすくなります。おもに通りなれた「けもの道」を移動し、行動範囲は時期により広がりを見せます。

Q2 どんなものを食べる？

A2 味が濃厚で甘味の強いものが大好物です。イモ、タケノコ、クリ、カキ、イネ、昆虫、ねずみ、ヘビなど、何でも食べる雑食性です。農作物への被害は季節に関係無く一年中見られます。

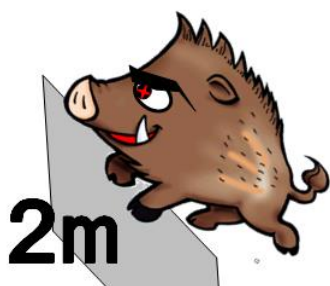
Q3 人間を恐れない？

A3 本来イノシシは臆病で注意深いので、なかなか人間の前に姿を現しません。昼夜を問わず状況に応じて活動しますが、人間を警戒しているときは日没後から活動を始めます。学習能力が高く、人の動きを観察する賢さがあり、いったん慣れると大胆不敵に行動するようになります。

基本的にはおとなしい性格で、他の動物を襲うことはありませんが、危険を感じたりパニックになって逆上したときは「猪突猛進」となるため注意が必要です。

Q4 運動能力は？

A4 跳躍力に優れ、助走なしで1m、よじ登れば2mの高さを乗り越えます。また、下から20cmのすき間があればくぐり抜けようとします。



足をかけて登る



掘ってくる



持ち上げる

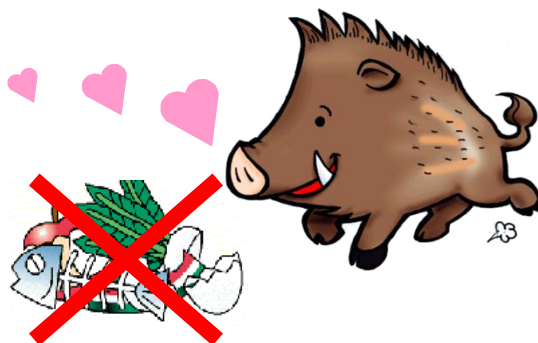
《対策①》 イノシシが近づきにくい環境をつくる

イノシシ被害の対策の第一歩は、イノシシを近づかせない環境をつくることです。「行きたい・近づきたい」と思わせる要因を取り除くことが大切です。

餌付けになることはやめる

エサは絶対に与えてはいけません。餌付けは人間と食物の関係を学習し、人家周辺まで出没する原因となる非常に危険な行為です。

また、農地へ摘果した果実や生ゴミなどを放置すると、イノシシの格好のエサになってしまいます。お墓のお供えやペットに与えたつものエサも、イノシシをおびき寄せる原因となります。

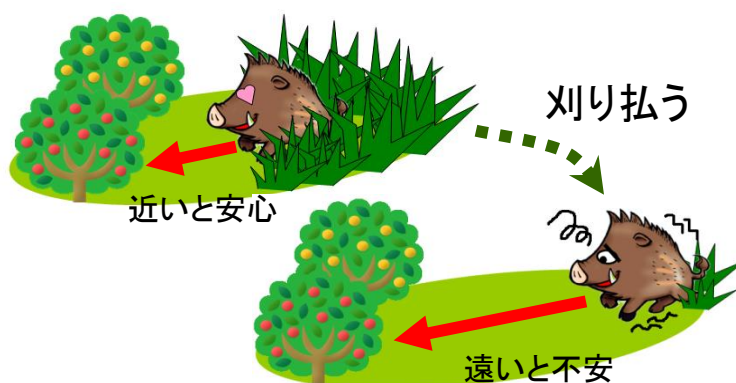


田畑に近づかせない

【隠れ場所をなくす】

耕作放棄地や草むらなど、隠れ場所や逃げ場所になる所を作らないよう、農地の適正な管理を心がけましょう。

また、田畑の周りの草木を刈り払って進入口を断ち、見通しを良くするだけで、イノシシを警戒させる効果があると考えられています。



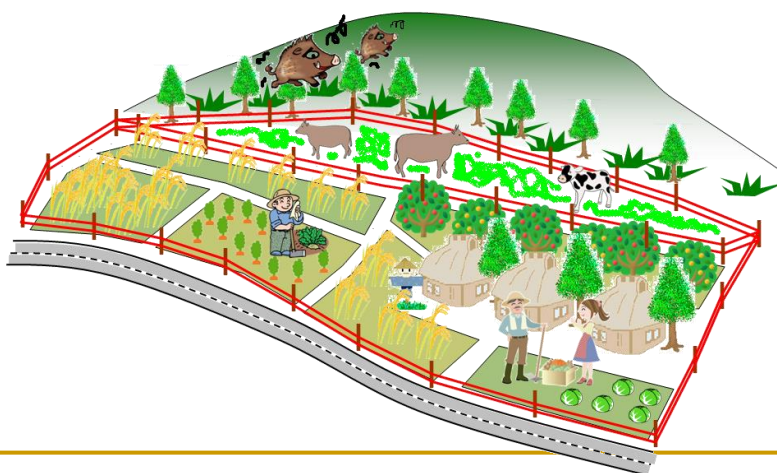
【地域全体で取り組む】

重要

個々の田畑だけを管理しても大きな効果を期待できません。地域ぐるみでイノシシが近づきにくい環境づくりを考え、対策に取り組む必要があります。

例えば、集落全体を電気柵で囲ったり、和牛を放牧し、山と田畑の間に緩衝地帯を設ける手法などが取り組まれています。

集落全体を守る対策が大切



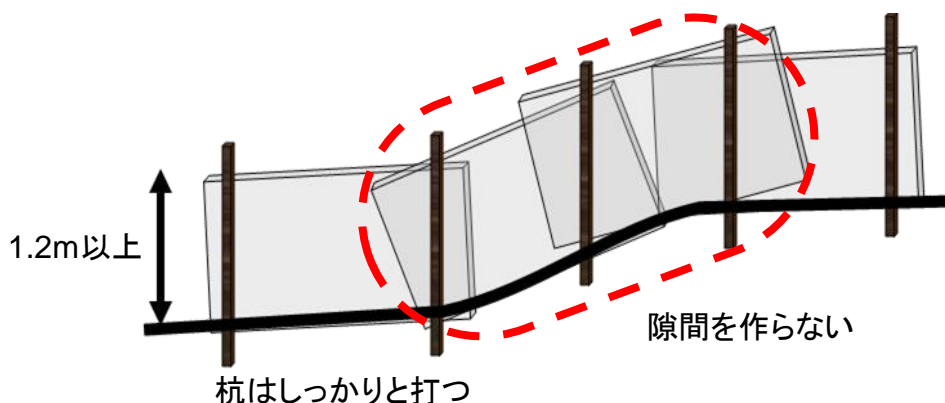
《対策②》 イノシシ被害の防ぎ方

田畑や集落への進入を防ぐため、様々な資材が使用されています。イノシシが嫌うポイントを抑えて効果の高い対策を取りましょう。

トタン柵で防ぐ

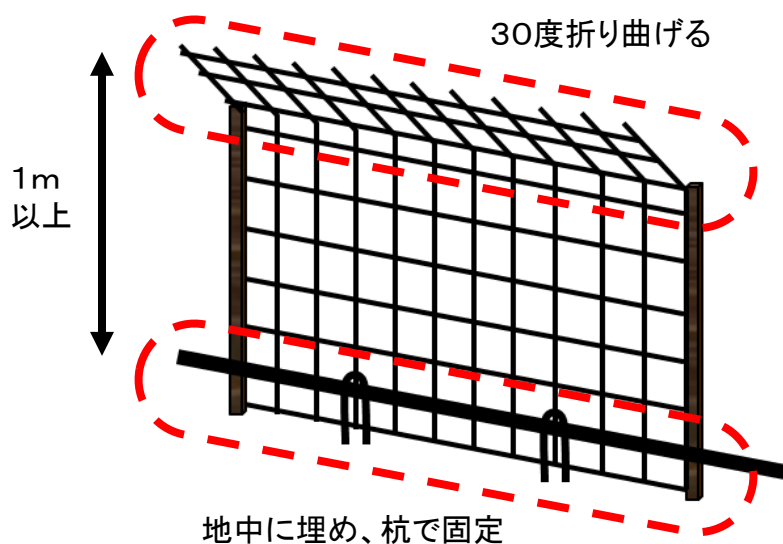
トタンを2段にしたり、他の資材と組み合わせて、高さ1.2m以上にして容易に飛び越えられないように設置します。トタンの向こう側が見えると、飛び越えたり、地面とトタンの隙間を押し上げたり、トタンを押し倒したりして進入しようとするので、継ぎ目を厚めにして設置します。

特に杭はしっかり打ち込まないと押し倒されてしまいます。



ワイヤーメッシュ柵で防ぐ

ワイヤーメッシュは、建築用の溶接金網を使った柵です。上部30cmほどのところをイノシシ側に30度くらい折り曲げ、折り返しをつけてやると、イノシシが乗り越えにくくなります。しかし、中が丸見えのままだと、持ち上げたり、下を掘ってくぐってしまうので、視覚的にも遮るようにしたほうが良いでしょう。



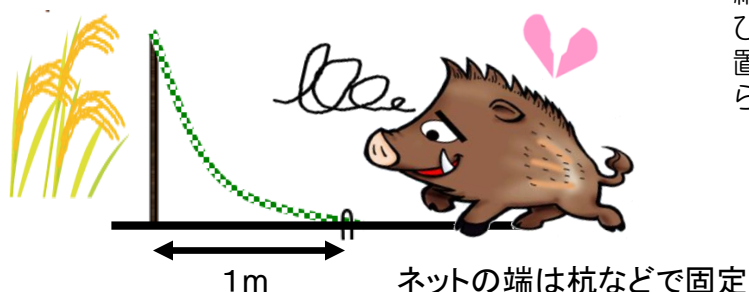
網目幅10cm以下のものにすると、ウリボウの進入も防げます。

角材をあて、足で踏み、手で引き上げるだけで簡単に折り曲げることができます。

ネット柵で防ぐ

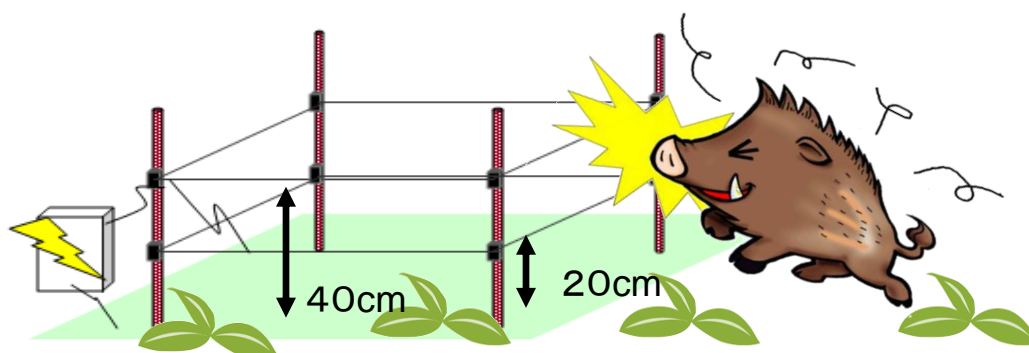
起伏のある場所ではネット柵の設置が容易です。イノシシは助走なしで1m以上の柵を飛び越えるほどのジャンプ力があります。手前1mくらいの幅で網を斜めに垂らすと足が

網に絡まるのを嫌がり、飛び越えようにも踏み切り位置が遠いので仕方なくあきらめます。



電気柵で防ぐ

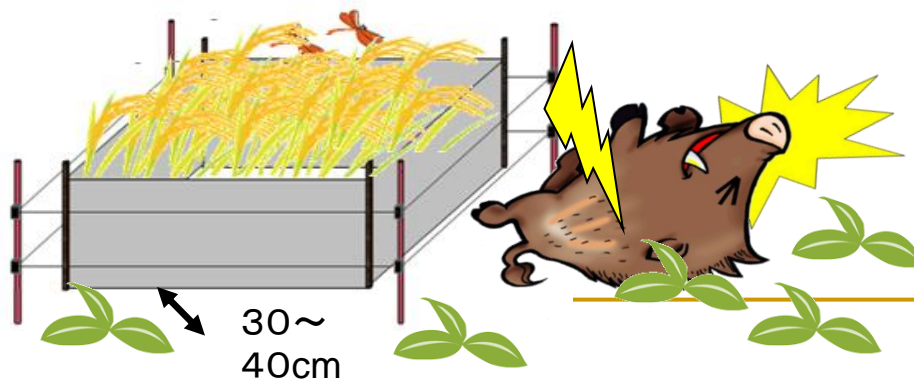
電気のショックにより侵入を防ぐ柵で、設置しやすく、イノシシに慣れを生じさせないため、現時点で最も効果的な方法と考えられます。電線が鼻先に触れ、足を通じて地面に電気が流れたときにショックを与える仕組みです。



鼻先以外の部位では殆ど効き目が無いので、鼻の高さを考えて20cm間隔で2段張りします。雑草が電線に触れると漏電して、いざというときに利かないので、草管理をこまめに行う必要があります。また、通電していない電気柵に対してイノシシは警戒（鼻先で警戒）せず、押しつけて侵入することがあります。

トタン柵と電気柵を組み合わせる防ぐ

トタン柵の30~40cm外側に電気柵を設置することにより、トタン柵の飛び越しや地面の掘り下げを防ぐことができます。トタン柵の弱点を電気柵で補う方法です。



《対策③》 被害が止まらないとき

イノシシ被害の防止の基本は、被害を引き起こす要因を知り、それに応じた対策を行うことです。人間とイノシシが住み分けしながら共存できる環境づくりが必要です。

追い払う

銃やわなが使用できない市街地や民家周辺へイノシシが出没した場合、山への追い払いを基本とした対応を行っています。

捕獲する

どうしても被害が止まらない場合、尾道市猟友会有害鳥獣捕獲班の協力により、やむを得ず捕獲（銃やわな等による殺処分）を実施します。



効果的な捕獲が重要

全てのイノシシが被害を与えているわけではありません。被害を与えているイノシシは、エサを求めて人里へ出没する特定の個体です。よって、被害を及ぼさない山のイノシシをいくら捕獲しても期待する効果は得られません。

罪の無い「山の10頭」を捕獲するより、「里の不良イノシシ1頭」を捕獲する方が被害が減少します。

イノシシの捕獲にはわなを使います。田畑を囲ってあれば、餌を求めるイノシシは仕方なくわなに入るようになり、捕獲の効率が高くなります。



しっかり囲えばわなに入る

イノシシに出会ったら

決してあわてず刺激しないよう、次のことに注意して行動しましょう！

【イノシシとの距離が離れている場合】

大抵は何もせずを通り過ぎていきます。
不用意に近づいたり、けしかけたりせず、避難することが大切です。

【イノシシと人間の距離が近い場合】

イノシシが平常を保っていれば、通常は人間から逃げていきますので、速やかにその場から離れます。

また、周辺を壁や塀に囲まれ、人間がいる方向しか逃げ場がない場合には、接近してくることがあります。イノシシに逃げ道を与えつつ、安全な場所に避難します。

イノシシが興奮状態のときは、高い確率で人間に攻撃してくるため、速やかに安全な場所に避難する必要があります。

最後に

特効薬はない

重要

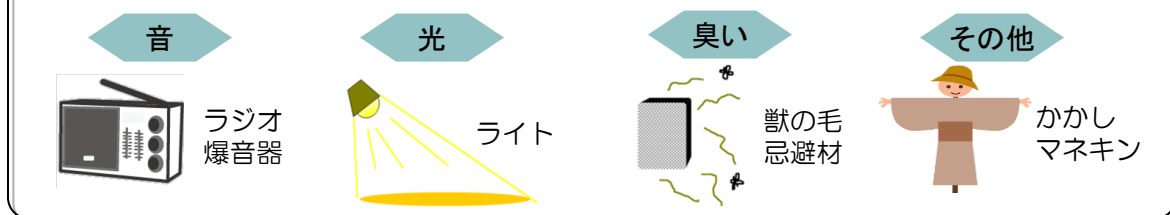
イノシシ対策に「これさえすれば大丈夫」といった特効薬はありません。

被害を減少させるには、「①近づかせない」「②進入させない」「③捕獲する」の取り組みを総合的に行う必要があります。

これらを地域ぐるみで継続して行うことにより、状況を少しずつ改善させることができます。



次のような対策は、持続的な効果が期待できません。



尾道市の助成制度

農林業者への防護さく設置等に対する補助制度があります。

【鳥獣防護柵等設置事業】

内容：防護柵等の設置に対する補助
※詳細はお問い合わせください。

マダニに注意！

マダニは、イノシシ等野生動物が出没する環境に多く生息します。マダニに咬まれることで、まれに重症熱性血小板減少症候群などの感染症にかかることがあります。（すべてのマダニが、病原体を持っているわけではありません。）

農作業、庭仕事、レジャー、ペットの散歩など野外活動するときは、皮膚の露出を少なくするなど、予防に努めましょう。

マダニに咬まれたら、自分で取らずに皮膚科など医療機関を受診しましょう。

問い合わせ先：福祉保健部 健康推進課 TEL：0848-24-1961

相談・問合せ先

●尾道市

産業部 農林水産課
御調支所まちおこし課
向島支所しまおこし課
因島総合支所しまおこし課
瀬戸田支所しまおこし課

TEL：0848-38-9473
TEL：0848-76-2922
TEL：0848-44-0112
TEL：0845-26-6211
TEL：0845-27-2212